

上越教育大学教育実習ルーブリック【小学校・中学校】

＜令和7年度在学生から適用＞

No.	項目	中項目	小項目	上教大 学部 スタンダード	教育実地研究Ⅰ【1年生】	教育実地研究Ⅱ【2年生】	教育実地研究Ⅲ【3年生】(教育実地研究Ⅳ【4年生】)	
							教育実習で目指す姿	
							観察実習	本実習
1	教員としての 素養	教育実習に 臨む基本的な 態度・姿勢	子供理解・信頼 関係づくり	ⅢA	子供を甘やかすことと、自立を促す指導の違いについて、観察を通じて考察することができる。	子供のよさや可能性を認め、個を尊重することの意義を理解している。	教員は、子供の可能性を認め、子供のよさを見付けようとする共感的・受容的に接していることが分かる。	子供を共感的・受容的に受け止め、よさや成長に気付かせ、子供との信頼関係を築くことができる。
2			法令等の理解・ 遵守	IB	各学校において、教員一人一人がどのように職責を果たしているかを観察を通じて考察することができる。	教育実習に向けて、自らを律し、学校教育関係の法令等を学ぶ意義を理解している。	教育実習に関わる法令等を理解し、実践することの大切さが分かる。	教育実習に関わる法令等を理解し、日々の教育活動で実践することができる。
3			自己課題	IA	自らの目指す教師像を捉え直すことができる。	自らの教職適性を再検討し、適切な自己目標と自己課題を設定することの意義を理解している。	教育実習における自己課題を見だし、場面ごとに学ぶ視点を明確にすることの大切さが分かる。	教育実習における自己課題を問い直したり、新たな課題を見だしたりすることができる。
4			子供から学ぶ姿 勢	IA	教員がどのように子供の声に耳を傾けているかを観察を通じて考察することができる。	日々の教育活動において、子供から学ぶ意義を理解している。	教員は、日常の教育活動において、子供の声に耳を傾け、子供から学ぶことを大切にしていることが分かる。	日常の教育活動において、子供の声に耳を傾け、子供から学ぶことができる。
5			新たな教育課題 への対応	IB	各学校における教育課題を観察を通じて考察することができる。	社会状況や時代の変化に伴って生じている新たな教育課題や子供の変化について理解している。	学校は、社会状況や時代の変化に伴って生じている新たな教育課題や子供の変化について、組織的に対応していることが分かる。	社会状況や時代の変化に伴って生じている新たな教育課題や子供の変化について、その要因や対応方法を学ぼうとすることができる。
6			日々の教育課題 への対応	IB	教員は、どのように日々の教育課題に対応しているかを観察を通じて考察することができる。	学校現場における様々な教育課題について、理解している。	教員は、日々の教育課題にどのように対応しているか、視点を明確にしなが観察することの大切さが分かる。	教育実習において生じた教育課題に対して、どう対応すべきかを学ぼうとすることができる。
7			主体性・積極性	IA	主体的・積極的に観察参加実習に参加することができる。	主体的・積極的に大学の授業に取り組むことの大切さを理解している。	主体的・積極的に、教育実習に参加することの大切さが分かる。	主体的・積極的に、教育活動における役割と責任を果たそうとすることができる。
8			社会人としての マナー・身だし なみ・生活	IC ID	観察参加実習への参加姿勢やふさわしい身だしなみを理解し、課題等に計画的に取り組む。	大学での授業への参加姿勢や課題等の締め切り厳守、時と場に応じた言動の大切さを理解している。	挨拶、時間・期日の厳守、時と場に応じた言動などの社会人としての基本的なマナーや身だしなみが分かり、実践している。	挨拶、時間・期日の厳守、時と場に応じた言動などの社会人としての基本的なマナーや身だしなみが身に付いている。
9		学級集団 づくり	朝の会・帰りの 会	ⅢB	子供同士の関わり合いを大切にしながら様々な教育活動が行われていることを、観察を通じて考察することができる。	様々な教育活動による集団づくりを通して、社会性を育てることの意義を理解している。	教員は、健康観察や出席確認、予定や提出物の確認・連絡等をしながら、漏れ落ちなく朝の会・帰りの会を運営していることが分かる。	子供による自主的な運営の指導をしながら、漏れ落ちなく朝の会・帰りの会を運営することができる。
10			係・当番活動等	ⅢB			教員は、子供のよさを引き出しながら、係や当番活動等を指導したり、学級の課題を解決したりすることを通して、望ましい集団づくりをしていることが分かる。	子供に積極的に関わり、個々のよさを引き出しながら、学級における望ましい人間関係づくりに努めようとするすることができる。
11		連教職・員 協働の	真摯な態度	IC	授業場面においては、教師の指導内容や仲間の助言を真摯に受け止めることができる。	授業場面においては、教師の指導内容や仲間の助言を真摯に受け止めることの大切さを理解している。	指導教員からの指導や他の実習生からの助言を真摯に受け止め、教育実習に生かすことができる。	指導教員からの指導や他の実習生からの助言を真摯に受け止め、教育活動に生かすことができる。
12			協調性	ID IIC	グループでの話し合いでは、仲間の発言に耳を傾け、自分の意見を表出できる。	グループでの話し合いでは、仲間の意見を受け止めた上で、自分の意見を表出することの大切さを理解している。	教員は、他の教職員と協力しながら教育活動を推進していることが分かる。	教職員や他の実習生と協調性をもって教育活動を推進することができる。
13		学校安全、 危機管理	安全・健康への 配慮	IB	各学校において、子供の成長や安全、健康をどのように考えているかを、観察を通じて考察することができる。	子供の生命・安全を第一に考え、教育実践を行うことの意味を理解している。	学校は、子供の安全・健康に配慮し、教具や環境を整備していることが分かる。	子供の安全・健康に配慮し、教具や環境を整備することができる。

No.	項目	中項目	小項目	上教大 学部 スタンダード	教育実地研究Ⅰ【1年生】	教育実地研究Ⅱ【2年生】	教育実地研究Ⅲ【3年生】(教育実地研究Ⅳ【4年生】)		
							教育実習で目指す姿		
							観察実習	本実習	
14	学習指導	授業構想	教材研究	II A	各学校における教科指導の実際を観察し、各学校種における特質を検討することができる。	授業づくりでは、学習指導要領や教科書、指導書等を利用して教材研究を行うことを理解している。	教員は、子供の発達段階や実態を捉えながら教材研究を行うことを大切にしていることが分かる。	学習指導要領や教科書、指導書、先行実践、その他参考書、地域素材等を利用して、教材研究を行うことができる。	
15			指導案の作成	II B		基本的な形式や内容を理解し、ねらいや評価などの一貫性がある学習指導案を作成する。	教員は、子供の実態に応じて様々な工夫しながら学習指導を構想し、授業実践していることが分かる。	子供の実態に応じて工夫しながら、ねらいや評価などの一貫性がある学習指導案を作成することができる。	
16			本時のねらいの設定	II B			本時の授業のねらいを設定して授業実践をする意義を理解している。	教員は、本時のねらいを明確に設定することを大切にしていることが分かる。	単元の指導計画に基づき、本時のねらいを明確に設定することができる。
17			発問の工夫	II A			発問の意義と授業のねらいに迫る発問を構成する手順を理解している。	教員は、授業のねらいに即した分かりやすい発問を大切にしていることが分かる。	授業のねらいや展開に即した課題に基づいて、思考を促す問いを区別しながら発問することができる。
18			学習形態	II B			授業のねらいとの関わりで、最も適切な学習指導法を選択する意義を理解している。	教員は、授業の展開計画に基づいて、学習形態(一斉・グループ・個別)に配慮していることが分かる。	授業のねらいや展開計画と関係づけながら、学習形態(一斉・グループ・個別)を工夫することができる。
19			教材教具の準備	II B			教材・教具(実物・絵・写真・図・表・ワークシート等)を準備する手順を理解している。	教員は、教材・教具(実物・絵・写真・図・表・ワークシート等)やICT機器を効果的に活用していることが分かる。	教材・教具(実物・絵・写真・図・表・ワークシート等)やICT機器の効果を考えて活用することができる。
20		授業実践	話し方・応答	II B		話す相手の発達段階に応じた言葉の選び方、話す速さ、声の大きさの大切さを観察を通じて理解することができる。	話す相手を想定して内容を整理し、ふさわしい声の大きさや視線、話す速さを意識して話すことを理解している。	教員は、子供の発達段階に応じて話す内容を整理し、全体に伝わる声の大きさや速さで話していることが分かる。	子供の発達段階に応じて話す内容を整理し、全体に伝わる声の大きさや速さで話すことができる。
21			指名・応答の工夫	II B		授業における意図的な指名の意義や方途、子供の発言を受容的に受け止めることの大切さを理解している。	教員は、意図的な指名を行い、子供の発言を受容的に受け止めながら授業を展開していることが分かる。	学習の目的に応じて意図的に指名したり、子供の発言を受け止めて授業を展開したりできる。	
22			板書	II B			学習理解を深めるための板書の大切さを理解している。	教員は、文字の筆順や既習漢字、大きさを意識しながら、丁寧に板書していることが分かる。	子供が学習課題や授業の流れを読み取れる、分かりやすい板書表現をすることができる。
23			机間指導	II B			机間指導をする意義とその方法を理解している。	教員は、目的をもって机間指導を様々な工夫していることが分かる。	目的をもって机間指導を様々な工夫し、子供の学びを把握することができる。
24	授業展開		II B			基本的な授業の構成方法を理解し、展開の仕方を工夫することの大切さを理解している。	教員は、導入・展開・終末の時間配分を考慮しながら、授業を展開していることが分かる。	子供の予想外の反応に対しても、柔軟に対応しながら授業を展開することができる。	
25	評価・改善	評価と授業改善	II C			指導と評価の一体化を理解しており、評価結果を基に授業改善することの大切さを理解している。	教員は、ねらいに基づいて子供を見取り、評価結果を授業改善につなげていることが分かる。	単元の指導計画やねらいに基づいて評価規準を設定し、子供の姿から自らの授業改善につなげることができる。	

No.	項目	中項目	小項目	上教大 学部 スタンダード	教育実地研究Ⅰ【1年生】	教育実地研究Ⅱ【2年生】	教育実地研究Ⅲ【3年生】(教育実地研究Ⅳ【4年生】)	
							教育実習で目指す姿	
							観察実習	本実習
26	生徒指導	・児童 多様性 理解	望ましい人間関係づくり	ⅢB	子供同士の関わり合いを大切にしながら様々な教育活動が行われていることを、観察を通じて考察することができる。	個別対応だけでなく、様々な教育活動による集団づくりを通して、社会性を育てることの意義を理解している。	教員は、子供との共感的理解に基づく信頼関係を基盤に、子供相互が認め支え合う人間関係づくりに努めていることが分かる。	子供のよさを引き出しながら、様々な教育活動を通して、望ましい人間関係をつくらうとすることができる。
27			子供理解とその対応	ⅢB			教員は、子供の小さな変容も見逃さず、話を聞いて一人一人の思いや願い、心身の健康状態を把握していることが分かる。	子供の言動をよく見て、思いや願い、健康状態や悩み等を捉え、必要に応じて助言することができる。
28			いじめ等の問題 行動への対応	組織的な生徒指導対応			ⅢC	教員相互が連携しながら生徒指導対応していることを、観察を通じて考察することができる。
29	特別支援等	特別な支援を要する 子供への対応	教育的ニーズの把握と対応	IVA IVB IVC	教員が多様な子供たちの声に耳を傾け、どのように対応しているかを、観察を通じて考察することができる。	インクルーシブ教育システム等、多様性を尊重し、共生を図るための基本的な意味を理解している。	インクルーシブ教育システムの理解に努め、教員は、子供の教育的ニーズや特性等の視点から子供を理解していることが分かる。	インクルーシブ教育システムを理解し、子供の教育的ニーズや特性等を把握しながら、指導教員の指導の下、対応することができる。
30	ICT等	教育ICTや情報活用	ICT等の効果的な活用	VA VB	学校は様々なICT機器を活用しながら教育活動を推進していることを、観察を通じて考察することができる。	デジタルとアナログの長所や短所を理解し、授業場面に応じて効果的に使い分けられることの大切さを理解している。	教員は、情報モラルや基本的なセキュリティの知識を身に付けていることや、授業内容や展開、子供の実態等に応じて、効果的に活用しようとしていることが分かる。	情報モラルや基本的なセキュリティの知識を身に付け、授業内容や展開、子供の実態等に応じて、効果的にICT等を活用した授業を行うことができる。